

<金標準、依然として中銀の買いと ETF の増加で出直り相場へ・・・>



(出所：オアシス)

FOMC の副議長でもあるウィリアムズ NY 連銀総裁や FRB 議長の候補でもあったウォラーFRB 理事がハト派の発言を行った事から、9 月 16 日の FOMC で利上げ確率が 50%へ低下するなど金標準先物は 22734 円で下げ渋る値動きを見せていた。しかし週末に発表された雇用統計では、非農業部門雇用者数が事前予想の 5.5 万人増を大きく上回る 16.2 万人増となり、前月の 2.3 万人減が 2.1 万人増へ上方修正を見せ、失業率は前月同様に 4.1%で変わらずを示すなど、労働市場が従来考えられていた以上に勢いがある事を示唆しており、利上げに耐えられる数字を見せている。ただウォラーFRB 理事は、今週発表される CPI や PPI は「妥当な数字になる」と見通しを示し「少なくともここは様子を見よう」と述べている。

また世界の中央銀行は 7 月に約 130 トンの金の購入を報告し、前年同月の 160 トンから減少するも、金 ETF の保有量は 23 トン増加するなど、再度巻き戻しの動きを見せている。そのため 22000 円で底堅く、8 月の高値 24640 円に向けた戻りに注目される。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げながら、シグナルも下げている。RCI は短期が下げ止まり、長期は 75%を切り下げている。ただ日足が指数平滑移動平均線のレンジで戻りが抑えられており、テクニカルは 23000 円での往来相場に注意したいと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 9 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 100,320 円(2026 年 9 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>